

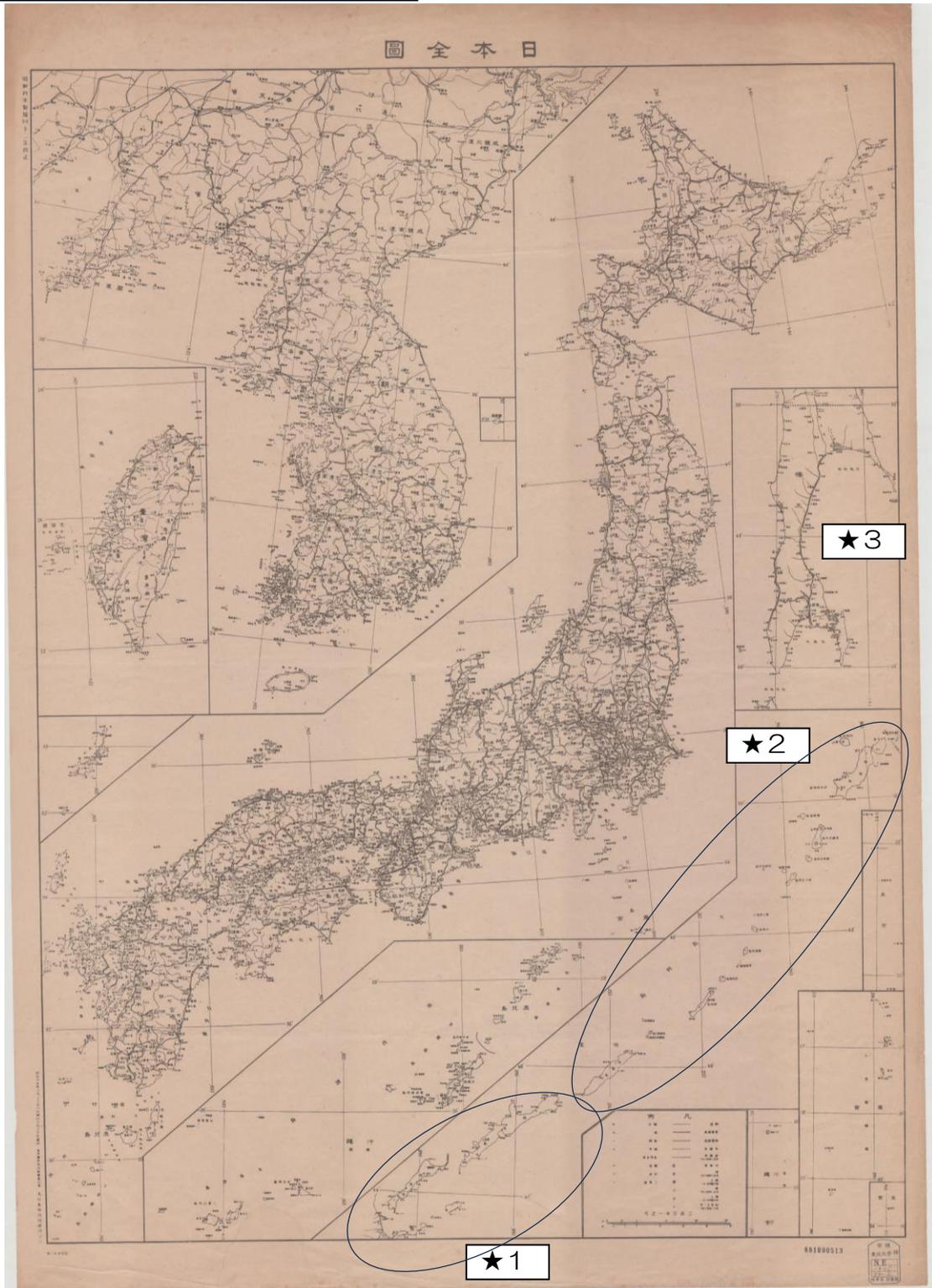
授業で使える当館所蔵地図

No. 89 (内) 1:2,000,000『日本全図』

作成年：1940(昭和15)年

サイズ：109×77cm

作者：大日本帝国陸地測量部



【解説】

日本が第二次世界大戦で敗戦するまでの東アジアでの最大範囲を表した日本図である。また、北方領土が日本固有の領土であることを示す地図でもある。1905(明治38)年、日露戦争後の講和条約としてポーツマス条約が締結され、その内容の一つとして、樺太(サハリン)の北緯50度以南は日本領となり、本図の右側の北方領土もそのように描かれている。

★1 北方領土

北方領土は我が国固有の領土であり、択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島のことを指す。地図には外国界（国境線）は描かれておらず、日本の領土となっていることが分かる。1875年の樺太・千島交換条約における日本が獲得した千島列島は18の島々から成るが、その中に北方領土は記載されておらず、千島列島とは明確に区別されている。正保御国絵図にも記載されているように、我が国は江戸時代より北方領土、樺太や千島列島を認識し、調査を行ってきた。北方領土は他国の領土になったことのない土地である。択捉島には薬取、紗那、留別の3村が存在したが、地図には地名が記載されている。

★2 千島列島

1855年の日本国魯西亜国通好条約（日魯通好条約）において、日本とロシアとの国境が定められた。千島列島では、択捉島と得撫島の間を国境とし、樺太（サハリン）には国境を設けず、両国人雑居の地とした。この条約において得撫島より北はロシア領となった。その後、1875年に樺太・千島交換条約が締結され、宗谷海峡を境に樺太をロシア領、カムチャッカ半島と占守島を国境として千島列島を日本領とした。占守海峡に外国界（国境線）が引かれており、第二次世界大戦中も両国の国境が明確にされていたことが分かる。

★3 樺太の南部

1904年に起こった日露戦争の講和条約（ポーツマス条約）において、北緯50度以南の樺太（サハリン）を日本の領土とすることが決まった。北緯50度のところに外国界（国境線）が引かれているのが見てとれる。南樺太には鉄道が敷かれ、日本の開発が行われていたことも分かる。

【用語について】

- 正保御国絵図
1644（正保元）年、幕府が諸藩から提出された、国絵図に基づいて作成した日本総図。
- 日本国魯西亜通好（日魯通好）条約
1855（安政2）年2月7日に日本とロシア間で調印。この条約で日本とロシアの国境に関する取決めも行われ、千島列島では択捉島と得撫島の間を国境とし、樺太（サハリン）には国境は設けず、両国人雑居の地とした。
- 樺太千島交換条約
1855（安政2）年の日魯通好条約で樺太（サハリン）は両国人雑居の地と決められていたが、日露間での紛争が頻発していた。1875（明治8）年5月7日にロシアのペテルブルグで本条約の署名がなされ、新たな国境が決定した。内容は、宗谷海峡（ラ・ペルーズ海峡）を境に樺太をロシア領、カムチャッカ半島と占守島を国境として千島列島を日本領とするものであった。
- ポーツマス条約
1904（明治37）年2月から翌1905（明治38）年の日露戦争後の講和条約としてアメリカ合衆国北部の軍港ポーツマスで調印された条約。本条約で北方領土については、樺太（サハリン）の北緯50度以南は日本領となった。

【利用の例】

- 中学1年地理的分野「日本の領域の特色」の学習で活用できる。現在の日本地図と比較しながら、北方領土が我が国固有の領土であり、日本の領域であることを確かめることができる。
- 中学2年歴史的分野「国境と領土の確定」「日露戦争」の学習で活用できる。樺太千島交換条約、ポーツマス条約の内容と地図を照らし合わせて、日本の領土の確定について太平洋戦争終結まで、北方領土が我が国固有の領土であることを確かめることができる。
- 中学3年公民的分野「国際社会における国家」の学習で活用できる。中学3年間の地理、歴史の学習を踏まえて、「固有の領土をめぐるどのような問題を抱え、どのような解決への取り組みを行っているのか」を考える際の資料として活用できる。

【参考文献など】『われらの北方領土2022年版』（外務省、2023年）